

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K09950

研究課題名（和文）安全医療の手術支援教育システム化に関する研究

研究課題名（英文）Research on systematization of surgical education for safety medical care

研究代表者

名越 智（Nagoya, Satoshi）

札幌医科大学・公立大学の部局等・教授

研究者番号：40264527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：整形外科手術教育は手術中の実践が中心であったが、手術ミスが社会問題となった。整形外科手術手技の向上、医療事故の防止、医療安全の担保が求められる。サージカルトレーニング（CST）では、実際の手術の感覚に近い状態で、生体と同程度の伸縮性処理遺体での手術シミュレーションが可能となり、同時に損傷回避部位・危険部位の展開、局所解剖により周囲の解剖学的構造（神経、血管などの重要組織の部位）と手術野の関係を構築できる。この遺体を用いた手術動画、画像は臨床手術で認識できない非可視化域の解剖学的危険部位を立体的に確認するシステムである。この手術教育システムの研究は医療安全に関する教育・研修の機会を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国民は安全で安心できる医療を求めているが、2000年代に医療ミスが社会問題化した。整形外科における手術教育において、この遺体を使った効果的な手術手技シミュレーションを行うCSTは、参加医師の手術手技の向上と安全性担保に貢献した。

このトレーニングは、臨床手術では認識できない非可視化域に存在する解剖学的な危険部位を立体的に把握でき、より安全な手術手技の遂行を可能とする。損傷回避部位・危険部位の展開、解剖により周囲の解剖学的構造と手術野の関係を描出する画像、ビデオ通じての教育システムは、安全な医療を提供できる整形外科医の育成に貢献し、国民の健康回復、維持に大いに役に立つ研究である。

研究成果の概要（英文）：Although a practice during actual clinical surgery was a main procedure for orthopedic education, surgical accident became a social problem. It is necessary to improve safe and reliable orthopedic surgery techniques, prevent medical accidents, and ensure medical safety. In surgical training, it is possible to simulate surgery on a cadaver with the same elasticity as a living body while the surgeon can imagine that surgical field is close to the feeling of actual surgery.

The relationship between the anatomical structure (sites of important tissues such as nerves and blood vessels) and the surgical field can be established. Surgical videos and images from this cadaver training are a system for three-dimensionally confirming anatomical dangerous areas existing in non-visual areas that cannot be recognized by clinical surgery. The study of this surgical education system provided orthopedic surgeons with an efficient and continuous opportunity for education and training on medical safety.

研究分野：整形外科学

キーワード：整形外科手術教育 手術ミス サージカルトレーニング CST 伸縮性処理遺体 手術シミュレーション  
手術教育システム 局所解剖

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 整形外科手術教育は、手術手技書の机上教育や On the job training (先輩医師が見せて教えて実践させる) が中心であった。しかし、医療事故が多発し、社会問題となっていることは注意すべき点である。
- (2) 一方、今までの手術動画などを用いた卒後教育は手術手技の羅列で、損傷回避部位の確認は医師の技量に依存してきた。当大学では、ご遺体を用い、安全で正確な手術手技獲得のための手術研修を5年前から開催し、医療事故の抑制に貢献してきた。
- (3) 本研究の特徴は、実際の各手術術式を実施し、同時に危険部位の展開、解剖することより周囲の解剖学的構造(神経、血管などの重要組織の部位)と手術野の関係を実際の手術と同じ場面を設定することにより確認できることである。
- (4) 本目的はご遺体を用いた手術動画を作成し、手術支援教育システムを用いての卒後教育により、安全で確実な整形外科手術手技の習得を可能とし、医療レベルの向上、医療事故の防止と医療安全を担保することにより社会に大きく貢献することである。

## 2. 研究の目的

- (1) 整形外科手術教育は、手術手技書の机上教育や On the job training (先輩医師が見せて教えて実践させる) が中心であった。しかし、この手術手技の手ほどきのみでは、術者としての経験不足、教科書や解剖学書からのみの情報に依存した状態で手術に臨むことは、医療事故につながり、国民の健康被害にもつながる。手術技術のレベルアップのためには、さらなる研鑽や別の角度からの教育システムが必要である。
- (2) 一方、今までの手術動画などを用いた卒後教育は手術手技の羅列で、損傷回避部位の確認は医師の技量に依存してきた。われわれは、ご遺体を用い、安全で正確な手術手技獲得のための手術研修を5年前から開催し、独り立ちできる術者を育ててきた。この CST プログラムの特徴は、実際の各手術術式を実施し、同時に危険部位の展開、解剖することより周囲の解剖学的構造(神経、血管などの重要組織の部位)と手術野の関係を確認させ、より効率的に手術手技の教育を行うことを目的とする。さらに、ご遺体を用いた手術動画を作成し、この手技を用いての卒後教育により、安全で確実な整形外科手術手技の習得を可能とするかどうかを検討することを目的とする。

## 3. 研究の方法

- (1) CST では、手術野が実際の手術の感覚に近い状態で手術を行えること、組織が生体と同じくらいの伸縮性を有している処理遺体であるために手術シミュレーション後に肉眼解剖が行える。この手技により、損傷を回避しなければならない部位・危険部位の展開を行うことができ、手術の有効性や周囲の解剖学的構造(神経、血管などの重要組織の部位)と手術野の関係を描出する肉眼解剖を行う。これにより臨床の手術ではみることができない非可視化域に存在する解剖学的な危険部位を立体的に確認することが可能である。
- (2) 解剖の教科書や解剖アトラスは、系統解剖を解説した平面図で構成されており、実際の手術野から可視できる組織構造ではない。解剖アトラスやモーションアトラスといったビデオ教材などの作成・出版も行ってきたが、実際の手術を施行したあとの合併症の情報、術野周囲の正常組織、神経や血管などの損傷回避部位に対する情報の公開はできていない。そこで、ご遺体を用いて各種定形手術を施行し、動画記録を行い、同時に生体

での実際の手術では展開不可能な、あるいは展開不要であるために手術中には非可視化領域となる血管・神経などの損傷回避部位を同時に展開し、動画記録を行う。

#### 4. 研究成果

CST は、2018 年度 97 名、2019 年度 81 名、2020 年度 73 名が参加して札幌医大解剖実習室にて行われた。内容は、肩関節手術手技、股関節手術手技手・肘関節手術手技、足・膝関節手術手技、頸椎手術手技、胸・腰椎手術手技、人工膝関節手術手技

2018 年 10 月 6, 7 日、10 月 20, 21 日、11 月 10, 12 日、2019 年 1 月 19 日

2019 年 10 月 5, 6 日、10 月 19, 20 日、11 月 9, 10 日

2020 年 10 月 17, 18 日、10 月 24, 25 日、11 月 14, 15 日

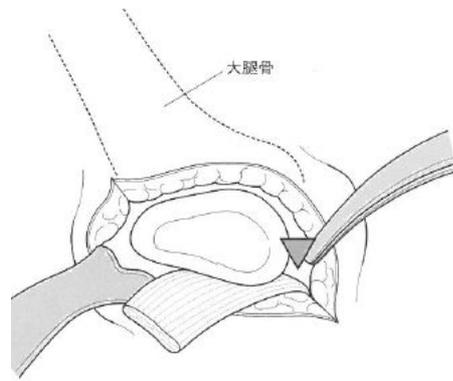
延べ 243 名の整形外科医, 初期研修医, 後期研修医が参加し、手術手技の向上、危険部位の確認を行った。

- (1) この CST では、手術野が実際の手術の感覚に近い状態で手術を行えること、組織が生体と同じくらいの伸縮性を有している処理遺体であるために手術シミュレーション後に肉眼解剖が行える。この手技により、損傷を回避しなければならない部位・危険部位の展開を行うことができ、手術の有効性や周囲の解剖学的構造(神経、血管などの重要組織の部位)と手術野の関係を描出する肉眼解剖を行った。これにより臨床の手術ではみることができない非可視化域に存在する解剖学的な危険部位を立体的に確認することが可能であった。
- (2) 解剖の教科書や解剖アトラスは、系統解剖を解説した平面図で構成されており、実際の手術野から可視できる組織構造ではない。解剖アトラスやモーションアトラスといったビデオ教材などの作成・出版も行ってきたが、実際の手術を施行したあとの合併症の情報、術野周囲の正常組織、神経や血管などの損傷回避部位に対する情報の公開はできていない。そこで、ご遺体を用いて各種定形手術を施行し、動画記録を行い、同時に生体での実際の手術では展開不可能な、あるいは展開不要であるために手術中には非可視化領域となる血管・神経などの損傷回避部位を同時に展開し、動画記録を行った。
- (3) 低侵襲性人工股関節置換術(THA)アプローチの工夫と解剖学的裏付けによる安全性の確立

THA の低侵襲性において重要なことは、単に手術手技の改善による組織のダメージ軽減だけではなく、術後の長期間にわたる股関節機能の改善と維持である。これを達成するためには、手術に伴う短期、長期の合併症の防止が重要である。なかでも THA 術後脱臼の防止が不可欠である。THA の脱臼の防止には、正確な術前計画と術中の股関節へ付着する筋腱の温存が重要である。そのためには、手術アプローチの工夫と問題点の検証が必要であった。我々は、脱臼の防止には梨状筋を含む短外旋筋群の温存がキーポイントとなると考え、THA アプローチ操作の股関節包切開を工夫が関節包の温存を可能とすること、大転子に付着する梨状筋を損傷しないことを fresh frozen cadaver を用いた実験で証明した<sup>1)</sup>。さらに CST において手術方法の検証を行ってきた。

THA における股関節の展開には、Modified Watson-Jones approach (Antero-lateral approach) を用いている<sup>2)</sup>。関節包の前面を展開し、関節包はサドルから白蓋前縁に向かう切開と

転子間線に沿って頸部内側に達する切開で、L字型のフラップ状とする。このとき、サドルに沿って iliofemoral ligament を切開しても short rotator は損傷しなことが解った(図1)。手術側下腿を手術台の後方に落として、近位大腿骨を挙上して、大転子内側のサドル上の関節包を切開すると、大転子が挙上しやすくなる。この時点で、大転子内側壁に付着する short rotator は温存される。実際の手術をシミュレーションする CST ビデオを撮影した。



#### (4) 寛骨臼骨切り術のピットフォール

当科では臨床経験のない MIS-curved periacetabular osteotomy の開発者である内藤正俊教授に依頼し、CST での手術デモンストレーションを行った。通常行う骨盤前方からの臼蓋骨切り術の手技後に、術野からは見えない術野深部の解剖学的検証を行った。骨ノミの挿入位置、術野からはブラインドとなる深部の血管との関係、神経への影響について検証した。それによると、皮膚切開部から離れていた外側大腿皮神経が臼蓋移動に伴う操作中の retractor により伸張され得ることが分かった<sup>1)</sup>。さらに恥骨骨切り操作では、骨ノミが閉鎖膜通過部の閉鎖動脈に近接していた。このことは同様な骨切り術の rotational acetabular osteotomy でも観察されている。恥骨骨切りノミの約 1.5cm 前方には大腿動・静脈が走行しており、立体的な距離感も確認できる。さらにブラインドで骨切りされる坐骨部の無名溝におけるノミの刺入による下臀動静脈を損傷する可能性が分かった。術中の出血事象は Periacetabular osteotomy の重篤な合併症の一つであるが、この CST を通じて出血危険部の立体的解剖位置が理解できた。

#### (5) 大腿骨頭回転骨切り術における障壁

特発性大腿骨頭壊死症 (idiopathic osteonecrosis of the femoral head : ONF) は、大腿骨頭に骨壊死が生じて関節面が圧潰し、二次性の変形性股関節症に至る疾患である。ONF は青壮年に好発することから、手術療法は可能な限り大腿骨頭を温存する術式が望まれる。大腿骨頭回転骨切り術は ONF に対する骨頭温存が可能な術式として 1973 年に杉岡<sup>3)</sup> により発表された。この術式では、骨頭への栄養血管を温存しながら、関節包を全周にわたり切開する。しかし、術中に関節包の全周を触れる妨げになる軟部



組織のあることが課題であった。これを CST にて検索すると、腸腰筋腱と小転子間に存在する腸骨腱下包であることが分かった(図2)。実際の手術での疑問点が明らかとなり、臨床へ還元できる知見であった。

(6) 十字靭帯温存人工股関節置換術の功罪

人工膝関節置換術(TKA)は、術後の膝関節痛の軽減と関節機能の回復を目的とする。前十字靭帯(ACL)には膝の位置を知る関節位置覚や、移動を認識する関節運動覚などの機能が存在する。正常な前十字靭帯が残存している症例に対して靭帯を切離して行ったTKAの満足度は低いことが判明している。したがって、近年では、正常膝関節の動きを再現するコンセプトの両十字靭帯温存TKAが行われてきた<sup>4)</sup>。この術式では、大腿骨と脛骨間の前・後十字靭帯が温存されることから理論的には正常膝機能の再現が可能と考えられる、しかし、CSTにおいて施行した両十字靭帯温存TKAで、ALC付着部で骨折が生じる合併症が観察された。このことから、新鮮凍結遺体を用いたバイオメカニクスの実験を計画した。この結果ではACLにかかる伸長力は正常膝の2~6倍であり、関節面の切除量とインサート厚の調整が重要であることが判明した<sup>5)</sup>。ふりかえって、両十字靭帯温存TKA施行時には、CSTを予め行うことにより適切なimplantationの訓練を行い、手術を安全に遂行することが重要できた。この研究は、CSTが臨床に還元できる重要な研究成果をもたらした。

(7) 足関節靭帯修復術の工夫

前距腓靭帯損傷に対する縫合術や靭帯再建術では靭帯の設置位置決定が重要であり、外果へ刺入するアンカーの位置がcriticalである。実際の臨床では関節鏡視により確認できる外果の最遠位端が、アンカーを打つ位置と認識されていた。しかし、CSTにおける検索では、鏡視でのアンカーの刺入位置が、本来の靭帯付着部より平均8mm程近位に見えることが判明した<sup>6)</sup>。CSTが、より正確な靭帯再建術の開発につながった。

<引用文献>

- (1) Sasaki M, Nagoya S, Kaya M, et al. Relationship between the hip joint capsule and piriformis tendon in a simulation of the modified Watson-Jones anterolateral approach in THA cadaver study. Clin Anat 2013; 26: 610-3. doi: 10.1002/ca.22069. Epub 2012 Mar 29.
- (2) Bertin K, Röttinger H. Anterolateral Mini-incision hip replacement surgery. A modified Watson-Jones approach. Clin Orthop 2004; 429: 248-55.
- (3) Sugioka Y. Transtrochanteric anterior rotational osteotomy of the femoral head in the treatment of osteonecrosis affecting the hip: A new osteotomy operation. Clin Orthop 1978; 130: 191-201.
- (4) Pritchett JW. Patients prefer bicruciate-retaining or the medial pivot total knee prosthesis. J Arthroplasty 2011; 26: 224-8.
- (5) Okada Y, Teramoto A, Takagi T, et al. ACL Function in Bicruciate-Retaining Total Knee Arthroplasty. J Bone Joint Surg 2018; 100:e114(1-7) d <http://dx.doi.org/10.2106/JBJS.18.00099>.
- (6) Teramoto A, Shoji H, Sakakibara Y, et al. The distal margin of the lateral malleolus visible under ankle arthroscopy (articular tip) from the anteromedial portal, is separate from the ATFL attachment site of the fibula: A cadaver study. J Orthop Sci 2018; 23: 565-9.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 35件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 名越 智	4. 巻 39
2. 論文標題 PSIを用いた人工股関節全置換術 . II. 術中手術支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関節外科	6. 最初と最後の頁 59-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智, 鈴木大輔, 寺本篤史, 岡田葉平, 佐々木幹人, 渡辺耕太, 小助川維摩, 舘田健児, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 39
2. 論文標題 骨盤・下肢領域における橋渡し研究を生むサージカルトレーニングの役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関節外科	6. 最初と最後の頁 861-866
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木大輔, 名越 智	4. 巻 63
2. 論文標題 半月板の基礎. 半月の発生と解剖. The Meniscus : 半月板のすべて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 485-492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水淳也, 藤田裕樹, 名越 智, 松山敏勝, 山下敏彦	4. 巻 63
2. 論文標題 股関節痛を主訴に来院した小児急性リンパ性白血病の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 977-979
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 舘田健児, 金泉 新, 山下敏彦, 名越 智, 佐々木幹人, 清水淳也	4. 巻 46
2. 論文標題 患者の社会的要因が人工股関節全置換術後の患者立脚型機能評価に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagoya S, Okazaki S, Tateda K, Kosukegawa I, Kanaizumi A, Yamashita T	4. 巻 3
2. 論文標題 Successful reimplantation surgery after extraction of well-fixed cementless stems by femoral longitudinal split procedure.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Arthroplast Today	6. 最初と最後の頁 123-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.artd.2020.01.004. eCollection 2020 Mar.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murahashi Y, Teramoto A, Jimbo S, Okada Y, Kamiya T, Imamura R, Takashima H, Watanabe K, Nagoya S, Yamashita T.	4. 巻 27
2. 論文標題 Denosumab prevents periprosthetic bone mineral density loss in the tibial metaphysis in total knee arthroplasty.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Knee	6. 最初と最後の頁 580-586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.knee.2019.12.010.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kosukegawa I, Okazaki S, Yamamoto M, Nagoya S, Suzuki C, Shimizu J, Takahashi H, Yamashita T	4. 巻 30
2. 論文標題 The proton pump inhibitor, lansoprazole, prevents the development of non traumatic osteonecrosis of the femoral head: an experimental and prospective clinical trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology	6. 最初と最後の頁 713-721
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00590-020-02622-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 山下敏彦	4. 巻 32
2. 論文標題 人工股関節ショートの有限要素法を用いた初期固定性の評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東日本震災誌	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 32
2. 論文標題 札幌医大における人工股関節全置換術に対する取り組み・課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東日本震災誌	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 佐々木幹人, 名越 智, 山下敏彦	4. 巻 62
2. 論文標題 既存カップにポリエチレンライナーのセメント固定を要したTHA再置換症例の術後成績	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北震災外	6. 最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木大輔, 名越 智, 金泉 新, 喜沢史弥, 山下敏彦	4. 巻 62
2. 論文標題 後壁が不足した寛骨臼形成不全における大腿骨頭の接触圧分布	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北震災外	6. 最初と最後の頁 39-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki D, Otsubo H, Adachi T, Suzuki T, Nagoya S, Yamashita T, Shino K	4. 巻 33
2. 論文標題 Functional adaptation of the fibrocartilage and bony trabeculae at the attachment sites of the anterior cruciate ligament.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clin Anat	6. 最初と最後の頁 988-996
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智	4. 巻 38
2. 論文標題 人工股関節全置換術におけるセメント固定,セメントレス固定の使い分け.特集 人工股関節全置換術 セメント固定vs.セメントレス固定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関節外科	6. 最初と最後の頁 24-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智, 渡邊耕太, 寺本篤志, 射場浩介, 吉本三徳, 山下敏彦, 辰巳治之, 藤宮峯子	4. 巻 93
2. 論文標題 整形外科卒後研修サージカルトレーニングの現状と今後 - 札幌医大の取り組み - 【シンポジウム】カダバー研修の現状と根との展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日整会誌	6. 最初と最後の頁 584-589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 山下敏彦	4. 巻 62
2. 論文標題 股関節とその周囲のスポーツ障害 股関節の関節外病変の診断	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 整災外	6. 最初と最後の頁 967-972
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智, 岡崎俊一郎, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 45
2. 論文標題 日本整形外科学会股関節疾患評価質問表 (JHEQ) を用いた各種セメントレス人工股関節前置換術の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 . Hip Joint	6. 最初と最後の頁 721-725
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦, 名越 智	4. 巻 45
2. 論文標題 寛骨臼荷重面曲率変化点を外側点としたCE角の計測方法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 172-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 勝又 顕, 小助川維摩, 舘田健児, 山下敏彦, 名越 智	4. 巻 61
2. 論文標題 Metal-on-Polyethylene人工股関節全置換術後に生じた巨大な後腹膜腫瘍の1例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北整災誌	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金泉新, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦	4. 巻 45
2. 論文標題 血小板減少に対する人工股関節全置換術の治療成績	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 339-343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水淳也、名越 智、小原 尚、小助川維摩、館田健児、山下敏彦	4. 巻 62
2. 論文標題 急速な関節破壊を呈したアミロイド股関節症の1 例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 1639-1642
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智	4. 巻 70
2. 論文標題 専門医をめざす症例問題トレーニング 骨盤・股関節疾患	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 整形外科	6. 最初と最後の頁 1393-1399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Daisuke, Otsubo Hidenori, Adachi Taiji, Suzuki Tomoyuki, Nagoya Satoshi, Yamashita Toshihiko, Shino Konsei	4. 巻 21
2. 論文標題 Functional Adaptation of the Fibrocartilage and Bony Trabeculae at the Attachment Sites of the Anterior Cruciate Ligament	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical Anatomy	6. 最初と最後の頁 accept
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ca.23520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智	4. 巻 秋冬号
2. 論文標題 Rectangular curved-short stem (Fltmore stem)を用いた人工股関節置換術	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zimmer Biomet Style	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagoya S, Tateda K, Okazaki S, Kosukegawa I, Shimizu J, Yamashita T	4. 巻 28
2. 論文標題 Restoration of proximal periprosthetic bone loss by denosumab in cementless total hip arthroplasty.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European J Orthopaedic Surg & Traumatol	6. 最初と最後の頁 1601-1607
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00590-018-2223-x.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu J, Emori M, Nagoya S, Sasaki M, Tateda K, Yamashita T	4. 巻 4
2. 論文標題 Chondrosarcoma mimicking MRI of the osteonecrosis of the femoral head: a case report.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BJR Case Rep	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uesugi Y, Seki T, Hayashi S, Nakamura J, Inaba Y, Takahashi D, Sasaki K, Motomura G, Mashima N, Kabata T, Sudo A, Jinno T, Ando W, Nagoya S, et al.	4. 巻 42
2. 論文標題 Quality of life of patients with osteonecrosis of the femoral head: a multicentre study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Int Orthop	6. 最初と最後の頁 1517-1525
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00264-018-3897-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智	4. 巻 61
2. 論文標題 レジストリーデータの活用 -metal on metal hip arthroplasty-.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 391-401
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名越 智	4. 巻 61
2. 論文標題 整形外科疾患におけるpatient specific guideの応用.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 1495-1501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 69
2. 論文標題 Forgotten joint score 12を用いた人工股関節全置換術術後評価.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 整形外科	6. 最初と最後の頁 905-909
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 submit
2. 論文標題 インプラント設置がForgotten joint score 12, JHEQを用いた人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人工関節学会誌	6. 最初と最後の頁 submit
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木大輔, 名越 智, 喜沢史弥, 佐々木幹人, 山下敏彦	4. 巻 39
2. 論文標題 寛骨臼回転骨切り術における被覆領域の検討.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床バイオメカニクス	6. 最初と最後の頁 161-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎俊一郎, 名越 智, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦	4. 巻 44
2. 論文標題 タブレット端末を用いたJHEQ データ収集法の評価.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 252 -254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木大輔, 名越 智, 喜沢史弥他	4. 巻 44
2. 論文標題 男性骨盤の前方CE 角は年齢とともに増大する.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 309 -313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小助川維摩, 名越 智, 館田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦	4. 巻 44
2. 論文標題 Forgotten joint score 12を用いた人工股関節全置換術後評価 下肢可動域の検討.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 750 -753
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水淳也, 名越 智, 江森誠人, 館田健児, 板橋尚秀, 山下敏彦	4. 巻 61
2. 論文標題 大腿骨頭壊死症と鑑別を要したびまん型滑膜巨細胞腫の1例.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 整・災外	6. 最初と最後の頁 885-888
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 喜澤史弥, 鈴木大輔, 名越 智	4. 巻 44
2. 論文標題 大腿骨頸部軸と大腿骨頭中心軸で計測したときの前捻角と頸体角の差.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hip Joint	6. 最初と最後の頁 159-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部紀代士, 湯田聡, 安井謙司, 大場騰, 大久保亜友美, 小林千紘, 柳原希美, 寺本篤史, 名越 智他	4. 巻 43
2. 論文標題 術前ヒラメ静脈は人工関節置換術の術部位によらず術後新規DVT発生を予測する指標である.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 超音波検査技術	6. 最初と最後の頁 555-563
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金泉 新, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 名越 智, 山下敏彦	4. 巻 59
2. 論文標題 寛骨臼回転骨切り術時の関節内病変と術後JHEQの関連.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道整災外	6. 最初と最後の頁 221-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 喜澤史弥, 鈴木大輔, 室田英樹, 高橋大介, 名越 智, 岩崎倫政	4. 巻 39
2. 論文標題 人工股関節置換術後の大腿骨頭中心変位が術後早期の股関節外転力におよぼす影響.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床バイオメカニクス	6. 最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 名越 智, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 佐々木幹人, 岡崎俊一郎, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 セメントレスインプラントを用いた臼蓋骨欠損に対する再建術の工夫 - 同種骨がない場合-. シンポジウム3 再置換術における臼蓋骨欠損に対する再置換術の工夫.
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 下肢疾患の手術療法におけるpatient specific guide の応用
3. 学会等名 第48回日本関節病学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 寛骨臼形成不全に対する大転子切離寛骨臼回転骨切り術の関節生存率.
3. 学会等名 第47回日本股関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 Rectangular curved-short stem (Fitmore stem)を用いた人工股関節置換術の中期成績と大腿骨変化 パネルディスカッション4「セメントレスTHAと骨反応」
3. 学会等名 第47回日本股関節学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 館田健児, 名越 智, 小助川維摩, 清水淳也, 金泉 新, 佐々木幹人, 山下敏彦
2. 発表標題 Dorr A形状大腿骨に対するZweymuller stemを用いたTHAの成績
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 館田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 患者の術前状態が人工股関節前置換術の術後評価に及ぼす影響
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 喜澤史弥, 岡崎俊一郎, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節セメントレスショートステムの応力分布と術後大腿骨骨反応
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節ショートステムの有限要素解析を用いた三次元的回旋安定性評価
3. 学会等名 第47回日本股関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節セメントレスショートステムの設置アライメントと応力分布
3. 学会等名 35回日本整形外科学会基礎学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節ショートステムの有限要素法を用いた初期固定性の評価
3. 学会等名 第69回東日本整形災害外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節全置換術後のショートステムの応力分布と術後大腿骨骨反応
3. 学会等名 第93回 日本整形外科学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金泉 新, 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節ショートステムの応力分布と術後大腿骨骨反応
3. 学会等名 138回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 拘束型ポリエチレンライナーを使用したTHAの成績
3. 学会等名 第138回北海道整形災害外科学会.
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 Dorr A 形状大腿骨に対するZweymuller stemを用いたTHAの成績
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 患者の術前状態が人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響
3. 学会等名 第50回人工関節学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 岡崎俊一郎, 舘田健児, 高橋裕樹, 山本元久, 鈴木知佐子, 向井正也, 村上理絵子, 山下敏彦
2. 発表標題 ランソプラゾールによるステロイド関連大腿骨頭壊死症の発生予防効果
3. 学会等名 第93回日本整形外科学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 岡崎俊一郎, 高橋裕樹 山本元久 鈴木知佐子, 山下敏彦
2. 発表標題 早期ステロイド関連大腿骨頭壊死症のMRIの経時的変化
3. 学会等名 第47回日本股関節学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木大輔, 小助川維摩, 名越 智, 金泉 新, 喜沢史弥, 舘田健児, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼回転骨切り術によって関節唇損傷部はどこへ移動するのか
3. 学会等名 第138回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木大輔, 芝山雄二, 道家孝幸, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 患者個別ガイドを用いた人工肩関節の設置アライメント
3. 学会等名 第26回日本最小侵襲整形外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suzuki D, Kosukegawa I, Nagoya S, Kanaizumi A, Kizawa F, Tateda K, Yamashita T.
2. 発表標題 Positional Change Of The Damaged Labrum After Rotational Acetabular Osteotomy
3. 学会等名 21st EFFORT Congress (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 喜澤史也, 鈴木大輔, 名越 智, 金泉 新, 清水智弘, 浅野 毅, 高橋大介, 岩崎倫政
2. 発表標題 偏心性寛骨臼回転骨切り術後の関節不安定性変化
3. 学会等名 第138回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水淳也, 藤田裕樹, 舘田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 山下敏彦, 名越 智
2. 発表標題 ペルテス(Perthes)病に対する完全免荷保存治療後の青年期における臨床評価
3. 学会等名 第138回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suzuki D, Kanaizumi A, Nagoya S, Kizawa F, Yamashita T
2. 発表標題 s adding " Internal rotation " necessary to the rotational acetabular osteotomy?
3. 学会等名 20th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFR0T) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanaizumi A, Suzuki D, Nagoya S, Tateda K, Kosukegawa I, Shimizu J, Yamashita T
2. 発表標題 Evaluation of stem alignment for total hip arthroplasty using new three-dimensional coordinate system
3. 学会等名 20th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFR0T) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagoya S, Kosukegawa I, Tateda K, Yamashita T
2. 発表標題 Successful re-implantation surgery following extraction of well-fixed cementless stems by femoral longitudinal split procedure
3. 学会等名 32nd International Society Technology in Arthroplasty (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 整形外科下肢疾患の外科的治療におけるpatients specific guideの有用性
3. 学会等名 第92回日本整形外科総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木大輔, 名越 智, 金泉 新, 喜澤史弥, 舘田健児, 小助川維摩, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼回転骨切り術後の応力分布の変化
3. 学会等名 第92回日本整形外科総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 佐々木幹人, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼荷重面曲率変更点を外側点としたCE角の計測方法
3. 学会等名 第92回日本整形外科総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 館田健児, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 Femoroacetabular impingementに対する股関節鏡手術後の経時的なMRI所見の変化.
3. 学会等名 第92回日本整形外科総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂井孝司, 上杉裕子, 安藤 涉, 関 泰輔, 林 申也, 中村順一, 稲葉 裕, 高橋大介, 佐々木幹, 中島康晴, 間島直彦, 加畑多文, 須藤啓広, 神野哲也, 名越 智, 山本謙吾, 仲宗根哲, 山本卓明, 菅野伸彦
2. 発表標題 特発性大腿骨頭壊死症に対するTHA・大腿骨骨切り術後の経時的QOL調査
3. 学会等名 第92回日本整形外科総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金泉 新, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 鈴木大輔, 喜沢史弥, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節ショートステムの有限要素法による初期固定性の評価
3. 学会等名 137回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水淳也, 藤田裕樹, 入船秀仁, 館田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 小児大腿骨頸部骨折の治療経験
3. 学会等名 137回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川維摩, 舘田健児, 金泉 新, 清水淳也, 佐々木幹人, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 患者の社会的要因が患者立脚型機能評価を用いた人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響
3. 学会等名 137回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 金泉 新, 佐々木幹人, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 Champagne flute状大腿骨に対するZweymuller stemの成績
3. 学会等名 137回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木大輔, 名越 智, 金泉 新, 舘田健児, 小助川維摩, 喜沢史弥, 山下敏彦
2. 発表標題 後壁が不足した寛骨臼形成不全における大腿骨頭の接触圧分布
3. 学会等名 137回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 骨盤・下肢領域における橋渡し研究としてのサージカルトレーニングの役割
3. 学会等名 34回日整会基礎学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 THA再置換術の高度骨欠損への対処. 【シンポジウム4】 高度骨欠損に対する再置換術
3. 学会等名 第46回日本股関節学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 2D-3Dマッチングを用いた股関節不安定性の3次元評価. 【シンポジウム12】
3. 学会等名 第47回日本関節病学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 セメントレスインプラントを用いた臼蓋骨欠損に対する再建術の工夫
3. 学会等名 第50回日本人工関節学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagoya S, Suzuki D, Tateda K, Okazaki S, Kosukegawa I, Sasaki M, Shimizu J, Kanaizumi A, Yamashit T
2. 発表標題 Patient-Specific Positioning Guide (PSPG)-Assisted Reorientation Rotational Acetabular Osteotomy.
3. 学会等名 18th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFROT). (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Okazaki S, Nagoya S, Shimizu J, Tateda K, Kosukegawa I, Yamashita T
2. 発表標題 Resolution Of MR Findings In Corticosteroid-Induced Osteonecrosis Of The Femoral Head After Lansoprazole Treatment
3. 学会等名 18th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFROT). (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Suzuki D, Nagoya S, Tateda K, Kosukegawa I, Okazaki S
2. 発表標題 Determination Of The Rotation Angle And 3D Guide Preparation In Rotational Acetabular Osteotomy
3. 学会等名 18th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology (EFROT). (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智, 渡邊耕太, 寺本篤史, 射場浩介, 吉本三徳, 小笹泰宏, 道家孝幸, 辰巳浩之, 藤宮峯子, 山下敏彦
2. 発表標題 整形外科卒後研修サージカルトレーニングの現状【シンポジウム13】
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智, 鈴木大輔, 岡崎俊一郎, 舘田健児, 佐々木幹人, 小助川維摩, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 JHEQによるセメントレス人工股関節置換術の評価【シンポジウム26】
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智, 鈴木大輔, 岡崎俊一郎, 舘田健児, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 Patient specific positioning guide(PSPG)を用いたreorientation RAO.
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 整形外科卒後研修サージカルトレーニング の現状. 【教育研修講演3】
3. 学会等名 第33回日本整形外科学会基礎学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智
2. 発表標題 整形外科領域におけるサージカルトレーニングの問題点と今後. 【教育企画】
3. 学会等名 第31回日本内視鏡外科学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 岡崎俊一郎, 清水淳也, 金泉 新, 佐々木幹人, 山下敏彦
2. 発表標題 JHEQによるセメントレス人工股関節置換術の評価.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 岡崎俊一郎, 山下敏彦
2. 発表標題 セメントレスシステム抜去時に大腿骨スプリット抜去法を用いたセメントレス大腿骨再置換術の術後評価.
3. 学会等名 第48回日本人工関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 インプラント設置が Forgotten joint score 12, JHEQ を用いた人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響.
3. 学会等名 第134回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 Femoroacetabular impingement に対する股関節鏡手術後の経時的なMRI 所見の変化.
3. 学会等名 第134回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 成人脳性麻痺患者に発症したFemoroacetabular impingement に対し, 股関節鏡手術を行った1例.
3. 学会等名 第134回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水淳也, 館田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 SL-PLUS MIA stemとSL-PLUS MIA HA stemにおける早期sinikingとステムアライメントの影響.
3. 学会等名 第48回日本人工関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木大輔, 館田健児, 小助川維摩, 佐々木幹人, 岡崎俊一郎, 名越 智
2. 発表標題 3次元シミュレーションによるGTSステムと大腿骨髄腔の接触部位の解析.
3. 学会等名 第134回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 館田健児, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 インプラント設置が Forgotten joint score 12, JHEQ を用いた人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響.
3. 学会等名 第48回日本人工関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水淳也, 館田健児, 小助川維摩, 岡崎俊一郎, 名越 智, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 SL-PLUS MIA stemとSL-PLUS MIA HA stemにおける早期sinikingとステムアライメントの影響.
3. 学会等名 第48回日本人工関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木大輔, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 岡崎俊一郎, 佐々木幹人, 山下敏彦
2. 発表標題 3次元シミュレーションによるGTSステムと大腿骨髄腔の接触部位の解析.
3. 学会等名 第48回日本人工関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 舘田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 インプラント設置がForgotten joint score 12, JHEQを用いた人工股関節全置換術の術後評価に及ぼす影響.
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金泉 新, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼回転骨切り術時の関節内病変と術後JHEQの関連
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塩泡孝介, 寺本篤史, 奴賀 賢, 渡邊耕太, 名越 智, 史野根生, 山下敏彦
2. 発表標題 ナビゲーションシステムによる人工膝単顆置換術のキネマティクスと患者満足度の関連.
3. 学会等名 第91回日本整形外科学会学術学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 館田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 3T放射状MRIによる股関節唇損傷の診断精度.
3. 学会等名 第135回北海道整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 館田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 Reflection cupを用いた人工股関節全置換術後単純レントゲン像の経時的変化.
3. 学会等名 第67回東日本整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金泉 新, 館田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 当科での血小板減少症に対する人工股関節置換術の治療経験.
3. 学会等名 第67回東日本整形災害外科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 館田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼荷重面曲率変更点を外側点としたCE角の計測方法.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 舘田健児, 名越 智, 小助川維摩, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 Femoroacetabular impingementに対する股関節鏡手術後の経時的なMRI所見の変化.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木大輔, 名越 智, 喜沢史弥, 高島弘幸, 舘田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼回転骨切り術における被覆領域の検討.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 喜沢史弥, 鈴木大輔, 名越 智, 喜沢史弥, 高島弘幸, 舘田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼形成不全および境界型寛骨臼形成不全における股関節外転の関節不安定性.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小助川維摩, 名越 智, 舘田健児, 佐々木幹人, 清水淳也, 金泉 新, 山下敏彦
2. 発表標題 寛骨臼荷重面曲率変更点を外側点としたCE各の計測方法.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木島泰明, 舘田健児, 山田 晋, 名越 智, 藤井 昌, 小助川維摩, 島田洋一, 山下敏彦
2. 発表標題 人工股関節前置換術のアプローチ変更に伴う侵襲性や潜在性感染率の変化 多施設・多アプローチ研究.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金泉 新, 名越 智, 舘田健児, 小助川維摩, 清水淳也, 山下敏彦
2. 発表標題 当科における血小板減少症に対する神億股関節置換術の治療経験.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上杉裕子, 坂井孝司, 関 泰輔, 林 申也, 中村順一, 稲葉 裕, 高橋大介, 佐々木幹, 中島康晴, 間島直彦, 加畑多文, 須藤啓広, 神野哲也, 安藤 渉, 名越 智, 山本謙吾, 仲宗根哲, 山本卓明, 菅野伸彦
2. 発表標題 特発性大腿骨頭壊死症患者における術前術後の性別によるQOLの特徴.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂井孝司, 上杉裕子, 関 泰輔, 林 申也, 中村順一, 稲葉 裕, 高橋大介, 佐々木幹, 中島康晴, 間島直彦, 加畑多文, 須藤啓広, 神野哲也, 安藤 渉, 名越 智, 山本謙吾, 仲宗根哲, 山本卓明, 菅野伸彦
2. 発表標題 特発性大腿骨頭壊死症患者における術前後の経時的QOL評価.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水淳也, 加谷光規, 舘田健児, 小助川維摩, 金泉 新, 名越 智, 山下敏彦
2. 発表標題 野球選手の鼠径部周囲障害に対する治療成績.
3. 学会等名 第45回日本股関節学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤宮 峯子 (FUJIMIYA Mineko)  (10199359)	札幌医科大学・医学部・教授  (20101)	
研究分担者	山下 敏彦 (YAMASHITA Toshihiko)  (70244366)	札幌医科大学・医学部・教授  (20101)	
研究分担者	辰巳 治之 (TATSUMI Haruyuki)  (90171719)	札幌医科大学・医学部・教授  (20101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------